

2012年12月

医歯薬通信 SANS FRONTIERES vol.12

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

12月19日に「いのちの学習会」を開催致します。臓器移植の講演を通して「生」や「死」について深く考え、感じながら様々な学びを得てほしいと思います。

ところで、臓器移植に欠かせない薬の一つに免疫抑制剤（臓器移植の際の免疫拒絶反応を抑える薬）がありますが、その中に「プログラフ」という商品があります。この薬は2010年末現在、世界96ヶ国で販売され、多くの命を救っているそうです。皆さんはこの薬の薬効成分「タクロリムス(FK506)」が、筑波山で採取された土壌の中に生息する放線菌の一種ストレプトミセス・ツクバエンシスの代謝物から創られたことをご存じでしたか。（ご存じ無ければ、詳しくは「放線菌」や「アステラス製薬」関連の資料で調べてみてください。）

人知れぬ大地に育まれた微生物が人類にとって重要な医薬品となる可能性を秘めていることを実感させてくれますね。「生物多様性」などという大仰な言葉で括る必要はないでしょう。私たちが自分の足下の環境を守って暮らしていくことの大切さを再認識させてくれる事実だと思います。

また、放線菌から薬効成分を発見した研究者の方々の探究心や serendipity も大いに好奇心をそそられる逸話ですね。

総合学習発表会

1年3学期に続き2回目の総合学習発表会を、7月に行いました。前回は医療に関するテーマについてのみ調べた発表でしたが、今回は各班で幅広く興味があることをテーマにして発表を行いました。

私たちの班は今でも話題になっている「放射線」について調べました。調べていくと、独自の単位や用語、放射線を利用して出来ることなど、自分たちが知らないことがたくさん見つかりました。これらのことを、みんなに分かりやすく伝えるためにはどのように発表したらよいか、説明文や図などを考え内容をまとめる力がついていったと思います。また、発表の後には質疑応答があるために、様々な質問を想定して回答を準備しておく必要があります。これにより、様々な面から物事考えるという力がついたと思います。（2-2男子）



1日医師体験

夏休みに水戸市にある城南病院で医師体験に参加しました。オリエンテーションの後、院内見学や血圧の測定、午後からはデイケア体験をさせていただきました。お昼休みには医師との懇談会に参加させていただき、茨城県の医師不足の現状について、貴重なお話を伺うことができました。茨城県の医師不足は私が思っていたよりも深刻で、全国ワースト2位だそうです。城南病院も医師が少ないため、夜勤を含めて48時間以上の勤務が普通にあるそうです。とても過酷な状況の中で、患者さんによりよい医療を提供しようと努力する「医志」を持った医師の皆さんを改めて尊敬しました。

今回の体験を通じ、医師を中心として様々な職種のスタッフが自分の仕事に責任と誇りを持って関わっている医療の現場を知ることができました。また、病院と地域の方々とのつながりについても深く考える良い機会となりました。（1-1女子）

1日看護体験

夏季休業中に、茨城県看護協会主催の1日看護体験に本校生も多数参加しました。近年の看護職に対する意識の高さからか、今回は定員に達した病院が多く、今年は参加できなかった生徒も出たほどです。以下は医歯薬コース生徒の感想です。

「私は今回看護体験に参加しました。小学1年生の男の子を担当させていただき、短い時間ではありましたが一緒に遊んだりその子のお母さんともお話をすることができました。私は看護師の仕事を間近で見たり、患者さんと触れ合ったり、患者さんそして家族の方との信頼関係を築くことの大切さを学ばさせていただきました。そして、患者さんの笑顔が「ありがとう」の言葉から元気をもらい頑張ろうと思いました。この経験から改めて看護師として働く厳しさ、素晴らしさを痛感しとても貴重な経験をさせていただきました。」（2-1女子）

特別養護老人ホームボランティア

暑さ厳しい8月の午後、医歯薬コース1年生の希望者8名で、今年4月に開所した「特別養護老人ホーム ヴィレッジみと」を訪問しました。医歯薬コースでは、平素から医療人や大学の先生方をお招きして講演会を実施していますが、今回は主体的に体験する機会を与えたいという考えから、福祉施設訪問を企画しました。当日は初めての訪問ということもあって、施設の見学だけで終わってしまいましたが、12月にはクリスマスパーティーのお手伝いをさせていただく予定です。今後も継続して、入所されている方と触れ合う機会を作っていきたいと考えています。また、今回参加してくれた生徒以外の生徒にも、積極的に参加してもらい、8名で始めた輪をもっともっと大きいものにしていけたらと期待しています。

教えて先輩

夏季休業中の8月6日に本校医歯薬コース卒業生約20名が在校生に対し、大学生活や高校時代の学習法などの話をするため来校してくれました。医学部、歯学部、薬学部、その他医療系学部（放射線、看護等）、理工系学部等、各教室に少人数で分かれ約2時間にわたり様々なアドバイスをしてもらいました。以下は在校生の感想です。

『教えて先輩』では様々な学部へ進んだ先輩の方が来てくださり大変興味深いお話を聞かせていただきました。その中で僕は医学部の話に興味があったため医学部について聞きました。医学部に行った人と聞くと堅苦しい人をイメージしていましたが、実際話してみるととてもフレンドリーですぐ打ち解けることができました。また以前は医学部というところは医療の知識を蓄えるための場所ぐらいにしか考えていませんでした。しかし、それだけでなく部活やサークルに参加するなど色々な楽しみもある場所とわかり自分の考えは間違っていたと感じました。高校入学時から医学部に入りたいという気持ちは少しありましたが、勉強ばかりというイメージからなかなか決意することができませんでした。しかし先輩方のお話からそうでないと知れたことで医学部に進学しようという決心することができました。『教えて先輩』は自分にとって目標を決めたり自分の希望する学部がどのような活動をしているか知るのに非常によい機会だと思いました。」（2-1男子）

2年生学習合宿

2年生にとって学習合宿は、1年の時に春夏と2回行っているのだから3回目になります。そのせいか皆とても慣れているような感じでしたが、普段より長い勉強を長い時間はやはりきつかったようです。2年の学習合宿の教科数も1年時と変わらず英数国の3科目でした。しかし、今回は最終日に1時間だけ授業を行い、その後クラスでいくつかの班に分かれ野外炊飯でカレーとナンを作りました。料理に少し失敗してしまった班もありましたが、どの班もみんなが役割を分担し、協力して行うことができました。最後の合宿は集中力を身につけ、生活習慣や勉強方法の見直し、その中でも楽しく過ごすことも出来たと思います。

私たち2年生は12月に修学旅行があり、旅行から帰ってきたと同時にもう一度それぞれの目指す大学に向けて受験勉強にスイッチを切り替えなければいけません。合宿で学んだことを活かしてこれから頑張っていきたいと思います。ときどき息抜きもして……。

（2-2男子）

推薦図書

『石巻 赤十字病院の100日』（小学館）

石巻赤十字病院+由井りょう子 著

2011年3月11日の東日本大震災は、わが国の災害史上、未曾有の悲劇をもたらしました。この本では震災発生直後から石巻赤十字病院がどのような問題に直面し、どのように困難を乗り越えていたのか最前線から見た医療活動が克明に綴られています。道路の寸断、停電、断水、増え続ける傷病者を目の当たりにしてもなお、人々の生命線として極限状況を打破してしていく医師や看護師の強い使命感と思いやりを感じられるはずです。

自身も被災者となったスタッフ全員が、全国からの支援を待ちながら不眠不休で全力を尽くす姿に「医療職の責任をまっとうする」意義を再認識させられます。

「悲惨さも苦しみも、そのまま伝えることによって、その対策もきちんと伝えられるに違いない。」というメッセージを医療従事者を志す皆さんに受け取ってもらえれば幸いです。

1日HR

医歯薬コースでは、毎年1、2年生が合同で1日HRを実施しています。今年は9月21日に国立科学博物館の見学と班別自由行動を行いました。

私たちの班が訪れた科学技術館では、体験しながら科学技術について学ぶことができました。ドライブシュミレーターではエコカーとガソリン車の燃費効率の違いについて学ぶことができ、他にも光や音に関する実験や気候の変動のシュミレーションなど、実験や展示物を用いた解説はとても分かりやすく、楽しく理解することができました。

国立科学博物館では、「元素のふしぎ」という特別展を見学することができ、食べ物や日用品、宝石など身近なもの組成について学ぶことができました。授業では難しいと感じる自然科学がとても身近に感じられました。

（1-1女子）



昭和大学出張模擬授業

1学期の茨城県立医療大学に続き、昭和大学歯学部の高橋浩二先生、薬学部の伊藤喬先生を招き出張模擬授業が開催されました。高橋先生には、昭和大学が取り組んでいる摂食・嚥下・言語障害の治療例を、実際に行われた動画を用いて説明して頂きました。飲み込む際にちょっとしたことに気づけたり、装具をつけることで劇的に症状が改善することに驚かされました。また、昨年震災直後にボランティアとして被災地に赴き、口腔ケアを行ってきた際の問題点などを聞くことができました。伊藤先生には、薬学部が6年制で以前と教育内容がどのように変化したか話して頂きました。実務実習が必要になり、患者さんと触れ合う機会が得られることで医療人として自覚が芽生えてきているというお話を聞きました。また、現在では薬剤師と言えば就職に困らないが、現状のままだと6年後には薬剤師が飽和状態になり、状況が変化します。そのために、就職できるからと言うような安易な気持ちで進学するのではなく、医療人として人の役に立ちたいという気持ちも持って進学して欲しいという真摯な言葉が生徒たちに響いていました。